

まちのわだいい

歴史ある彼岸市

4年ぶりのにぎわい

～溝口 春の彼岸市～

3月19日（日）、伯耆溝口駅周辺で溝口春の彼岸市が開催されました。この彼岸市は、大正14年に始まった歴史ある催しで、新型コロナウイルス感染症の感染が落ちついたことから、4年ぶりの開催となりました。

当日は、伯耆溝口駅から伯耆町役場溝口分庁舎前にかけて多くの露店が並び、鬼面太鼓や溝口傘踊り同好会によるステージイベント、お楽しみ抽選会などが行われました。4年ぶりの開催とあって、溝口地区だけでなく、他の地区や町外からも多くの人が訪れ、大にぎわいの催しとなりました。

ボランティアスタッフとして彼岸市の運営にかかわった学生は、「今年は彼岸市が開催できてうれしいし、こんなにたくさんの方が集まって楽しめる場所が戻ってきて感激している」と話しました。



駅前の通りには屋台がずらり

日本海新聞

ふるさと大賞2022

～伯耆ニュータウン生ごみ回収チームと

北野大和さん受賞～

地域の活性化とスポーツの発展に貢献した個人・団体に贈られる「日本海新聞ふるさと大賞2022」表彰式が3月14日（火）、伯耆町役場で行われ、地域貢献賞に伯耆ニュータウン生ごみ回収チームが、スポーツ文化功労賞に北野大和さんが選ばれました。

地域貢献賞を受賞した伯耆ニュータウン生ごみ回収チームは、自治会内の家庭から出る生ごみを収集し、ごみ削減やリサイクル推進に取り組んでいます。

スポーツ文化功労賞を受賞した北野大和さんは、県中学総合体育大会の飛び込み競技男子3メートル板飛び込みで優勝、全国中学体育大会の同種目で6位入賞するなど優秀な成績を収めています。

受賞者を代表して、野上代表は、「活動が地域貢献につながり、受賞できた。高齢化が進んでいるが、これからも続けていきたい」と謝辞を述べました。



受賞者の野上さん(前左)、北野さん(前右)

大山ヒルズ

20周年感謝の集いを開催

大山ヒルズで4月11日（火）、開場20周年感謝の集いが行われ、騎手・調教師・馬主などの競馬関係者およそ350人が出席しました。大山ヒルズは、2003年に株式会社ノースヒルズの競走馬の育成拠点として伯耆町真野に開場され、無敗の3冠馬コントレイルをはじめ、キズナ、ワンアードオンリーと3頭のダービー馬を生産しています。

式では、ノースヒルズの前田幸治代表があいさつし、「桜花賞を取るまでに14年かかり大変でした。今後は100年以上牧場をやってほしい」とこれまでの軌跡を振り返りながら、感謝の言葉を述べました。

また、これまでの感謝のしるしとして、伯耆町に1,000万円の寄附をいただきました。いただきました。寄附金は、伯耆町の地域活性化に活用させていただきます。



ノースヒルズの前田幸治代表(右)から1,000万円の目録をいただきました